

令和元年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	松本発の住民参加型の医工連携ものづくりモデルの構築
事業主体 (連絡先)	信州メディカル産業振興会 松本市旭 3-1-1 信州大学学術研究・産学官連携推進機構 URA 室内 TEL 0264-37-3421 mail : smia@shinshu-u.ac.jp
事業区分	保健、医療、福祉の充実に関する事業
事業タイプ	ソフト事業
総事業費	694,566円 (うち支援金 : 555,000円)

事業内容

近年、入院の短期化などにより在宅での看護や介護が増え、家庭内で医療機器・介護用品を使用することが増えています。しかし、狭い部屋では使いづらかったり、かっこよくないデザインだったり、患者さんや家族が満足できないものが多いのが現実です。

そこで、患者さんや高齢者、その家族をはじめ広く住民の皆さんに参加いただき、住民×ものづくり企業×医療・介護従事者により、誰もが使いやすく、デザインもよく、みんなが元気になれる、在宅医療・介護用の医療機器等を作り出す「住民参加型の医工連携ものづくりモデル」を構築する。



【目標・ねらい】

- ① 本事業の普及啓発
- ② 在宅医療・介護に関するニーズを住民から収集
- ③ ニーズに基づく開発を開始

事業効果

普及啓発の活動により、住民、行政、企業、医療・介護従事者の本事業に対する認知度が向上しており、本事業を通じて、開発された製品・サービスを評価する仕組みについては、外部機関との連携の話が進んでいる。

参加者はまだまだ少ないが、参加者からは「とても良かった」「また参加したい」などのコメントが多く、実際にリピーターが増えている。また、3年前の事業開始時は否定的な意見もあったが、最近は好意的な意見が多く、松本地域には住民が自ら困りごとの解決に参加できる仕組みがあることが少しずつ浸透し、受入れ始めていると感じている。

※自己評価【B】

【理由】自宅での療養や看護、介護にまつわる「困った」を解決する本事業について認知度は確実に上がっており、事業趣旨に対する賛同や期待、リピーターも増えている。

今後の取り組み

引き続き、住民から医療・介護のニーズを収集し、ものづくり企業との連携により解決する本事業について松本地域内外への普及啓発を図るとともに、住民からのニーズに基づく開発をさらに進め、より多くの製品・サービスを市場に送り出すことを目指す。

さらに、松本市や介護福祉施設と連携して、開発された機器・器具を評価する仕組みについてデンマークの事例等を参考に検討を進める。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある